

# 失敗しない培養液(活性液)の作り方



EM培養液は活性液とも呼ばれていますが、決して菌を活性化するために作るものではありません。

培養することにより単純に量を増やし、コストを抑えることを目的として作るものです。

大規模農家などEMを大量に使用する方々においては、コスト面においてとても有用な農業資材です。

家庭菜園など少量の使用においては、培養液を作るのではなくそのまま希釈して使用することをお勧めしています。

大切なのは、活性液をEMの力で腐敗ではなく発酵に向かわせることです。

- ① 糖蜜 25cc を適量の水、またはお湯によく溶かしペットボトルに入れます。  
(お湯の場合には人肌くらいに冷ましてから②へ進みます。)
- ② EM1号 ----- 100cc  
EM2号 ----- 5cc  
EM3号 ----- 5cc  
をペットボトルに入れ、水を900ccの目盛りまで加えます。  
(ペットボトルの肩口くらいまで)
- ③ 2～3回ペットボトルをゆっくりと上下させます。  
しっかりとキャップを閉め、できるだけ太陽の光が当たる場所か湿度の高い場所に置くと、1～2日で炭酸ガスが出てきてペットボトルがパンパンに膨れあがります。  
キャップをゆっくりとゆるめながらガス抜きをし、このガス抜きを膨れなくなるまで何度か繰り返します。
- ④ キャップを開けてもガスが出なくなれば出来上がりです。  
キャップを開けてもくさい臭いがしない事、舐めてみて甘みがなくすっぱい事。  
また pH が 3.9 以下であれば成功です。  
熟成期間を十分ににとるとさらに良い活性液になりますので、冷暗所で1ヶ月以上保存してから使用してください。  
ペットボトルを押して中の空気をできるだけ少なくし、太陽の当たらない涼しい場所で保存します。小さな容器に分割すると保存しやすくなります。

**ワンポイント講座 1**

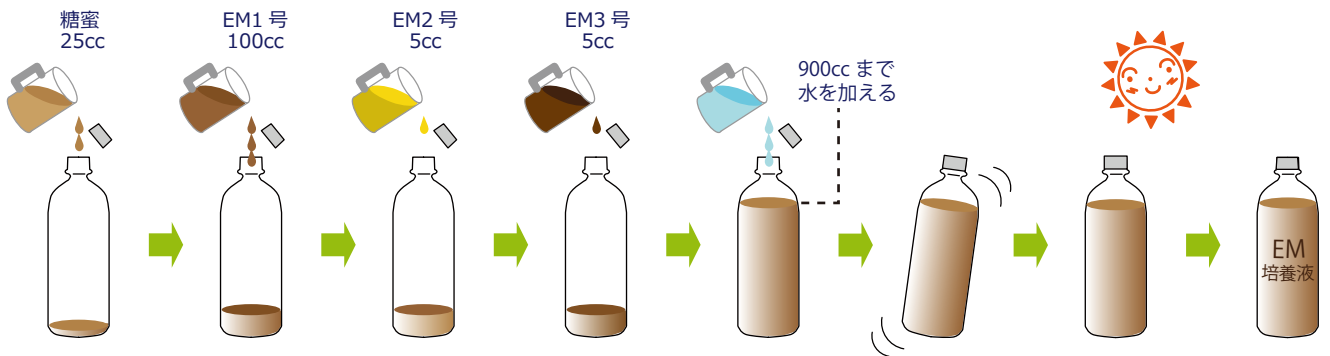
重要なのは培養液の倍率は10倍までの培養とすることと、2次培養3次培養はおこなわないことです。

一般の人が活性液を作る環境は、容器・空気中など様々なところに雑菌が存在し、それらの雑菌が活性液の中に取り込まれます。

100倍、1000倍の培養液を勤めているケースもあるようですが、EM菌の絶対数が少なく、菌のバランスが崩れ腐敗する可能性が非常に高いのでお勧めいたしません。

**ワンポイント講座 2**

EM1号に含まれている菌のうち、乳酸菌は糖蜜を餌として培養できます。しかし放線菌・光合成細菌の餌は主にキチン質・硫化水素や有機酸なので糖蜜を入れても培養することができません。糖蜜では培養できない菌を補うため、放線菌、光合成細菌が主体のEM2号・EM3号を少量加えて、菌バランスのとれた培養液をつくります。



## ◆ 当店がサイオンEM1をお勧めする理由 ◆

EM1号には、EM研究所製造の「EM1」とサン興産業製造の「サイオンEM1号」の2種類があります。下記は(財)沖縄県環境科学センターに依頼した、EM1とサイオンEM1号の成分分析結果です。EM1号は乳酸菌主体として作られた農業資材ですので、乳酸菌の数がポイントとなります。サイオンEM1号はEM1と比べて約200倍、EM1(沖縄限定販売)と比べると実に150万倍の乳酸菌が含まれていることが判明しました。

メーカー	製品名	乳酸菌	酵母
サン興産業	サイオンEM1号	830,000,000個	9,000個
EM研究所	EM1	4,200,000個	830個
EM研究機構	EM1(沖縄限定販売)	550個	5,400個

## お問い合わせ

EMと自然派化粧品のお店 【ミントグリーン】

www.mint-green.jp    mint@neofrontier.co.jp

[運営] 株式会社ネオフロンティア

千葉県千葉市美浜区中瀬2-6-1 WBGマリブウエスト26F

TEL: ☎ 0120-352-310 / FAX: ☎ 0120-234-716